

具体的方向性を探る

保健医療福祉未来図会議

陸前高田市

陸前高田市の保健医療福祉未来図会議は19日、米崎地区コミュニティセンターで開かれた。市内外の保健、医療、福祉の関係団体が出席し、市の復興計画に理解を深めるとともに、各分野の復興に向けて具体的な方向性を探った。

同会議は震災発生以降、各団体における現在の取り組みと活動の共有を図ろうと、「東日本大震災にかかる市保健医療福祉包括ケア会議」の名称で18回実施。24年度を迎え、未来に向けて具体的な方

向性を議論し、考えを共有していくこと、「未来図会議」に変更した。初回の会議には、保健所や福祉施設、病院、子育て支援など市内外の約30団体から50人余りが出席。市民生部の菅野直人部長は「市では復興計画の具

体化に向けて取り組んでおり、地域包括ケアの整備として施設と全体的な体制づくりを同時進行で進めていきたい。そのためにも関係者から意見や助言をいただきたい」とあいさつした。



出席者らは一人ひとり自己紹介し、今後の

会議の進め方を確認。市全体の復興について把握しようとする、市側から復興計画の説明を受けた。

その後、復興計画を受けて作成した「陸前高田市保健医療福祉未

来図(たいたいてちょう台)について、意見を交換した。

未来図は、市復興計画で「水上山麓地区・健康と教育の森ゾーン

の形成」として、市民の生涯教育や健康づくりを促進する保健医療福祉総合エリアを創設することを踏まえ、ソフト面による包括ケアシステムを構築しよう」と作成。ハード面の整備と並行し、関係団体が情報共有と連携を図りながらこのケアや健康づくり、高齢者の生きがい、居場所づくり、子育て支援などに取り組みあり方が提

案されている。

出席者からは「病院の近くに保育所がほしい」「高齢者だけでなく、子どもたちについても考えて将来に何をしたい」「各団体の得意分野だけを生かすのではなく、ほかの分

野も含めてトータル的な考え方が必要」などの意見が出された。

会議は今後毎月1回のペースで開催。未来図をたたき台に、より良い包括ケアのあり方と実現を目指して意見交換を重ねていく。

保健、医療、福祉の各団体が参加した未来図会議Ⅱ米崎地区コミセ